



【学会通信 No. 64】 2011. 5. 19

【日本プロテオーム学会通信】は、日本プロテオーム学会会員の皆様に配信しています。

日本プロテオーム学会の皆様

レーザーマイクロダイセクションは医学生物学研究では欠かせない技術として認識されています。さまざまな細胞が存在する正常組織、疾患組織を研究対象とする場合は、レーザーマイクロダイセクションによって目的の細胞を回収することで、はじめて正確な発現解析が可能になるからです。一方、レーザーマイクロダイセクションの普及度はあまり高いとは言えません。切片の作製、染色、顕微鏡下での観察など、独特の工程に敷居の高さを感じる研究者は多いようです。また、各社から販売されている機械はそれぞれどのような長所があり、どのような研究目的に適しているのかを知る機会はこれまでにありませんでした。

本研究会では、レーザーマイクロダイセクションを使って生産的にデータを得ている研究者に実験の具体的なところを話していただきます。講演者の方々はそれぞれ異なるメーカーの装置を使用されています。すでに装置を購入している方には研究のヒントとなるような、そして、これから導入しようとしている方には購入のガイドとなるような研究会にしたいと考えています。

皆さまのご参加を、心よりお待ちしております。

記

第一回 Laser Microdissection 研究会

【日程】2011年8月25日(木) 13:00~18:30(予定) 受付開始:12:30~

【会場】ニチイ学館 神戸ポートアイランドセンター3階

【主催】Laser Microdissection 研究会

【プログラム】<http://www.dialogue2005.com/lmd/Program.html>

【オーガナイザー&基調講演】

超高感度の蛍光色素を用いたレーザーマイクロダイセクションからのがんプロテオーム解析

近藤 格

独立行政法人 国立がん研究センター研究所 創薬プロテオーム研究分野 分野長

ヒト腎系球体プロテオーム解析

山本 格 先生

新潟大学 大学院医歯学総合研究科 附属腎研究施設 構造病理学分野 教授

レーザーマイクロダイセクションを用いる病理組織切片からのタンパク質・バイオマーカー研究

西村 俊秀 先生

東京医科大学 外科第一講座 客員教授

病理組織におけるプロテオーム解析 — FFPE 材料からの解析のメリット—

鰐淵 英機 先生

大阪市立大学 大学院医学研究科 都市環境病理学 教授

細胞培養技術における、Laser Microdissection の有効利用法

鳥橋 茂子 先生

名古屋大学医学部保健学科 理学療法学専攻 教授

【Company Lecture】

<http://www.dialogue2005.com/lmd/company.html>

【お申込先】

<http://www.dialogue2005.com/lmd/entry.html>